

稲作速報

第7号

発 JA 金山
行 営農部

・8月の稲管理
・R1 年特の特集
・営農情報
・営農トピックス他

「生育順調！」 出穂は、平年よりも3日早い、 降雨少なく、最後まで水管理と防除で!!

7月中旬から高温天候が続いたことで、遅れ気味だった稲の生育も順調に進み、出穂は一斉に始まった。連日30℃を越える酷暑の中、生育量に個人差はあるものの、一気に出穂が早まってきた。今後この高温傾向が続く見込みであり、高温登熟障害(乳白・腹白等の白粒、胴割れ粒の発生)も懸念されるため、引き続ききめ細かな稲作管理に努めてほしい。

左表は、町内平均の品種別出穂状況だが、総じて、平年よりも4日ほど早い状況となってきた。(一番早い田・大又モチ 7/24)。現在、あきたこまち・ヒメノモチ等は徐々に傾穂期を迎え、晩生のつや姫も徐々に穂が見えそうな状態になってきた。

今年の稲生育としては、非常に強い「ワキ」と6月中頃の一時的な低温の影響があったものの、その後天候が回復し、順調に経過しており個人差はあるが粒数も多いと予想される。しかし、今後この高温傾向が続く見込みとなっており、これから「いかに登熟を高めるか」(千粒重・登熟歩合)。最後まで水管理と防除が大切であり、万全を期してほしい。

「カメムシ発生注意報第一号」発令中。穂イモチ病も万全に!!

一方、病害虫発生としては、7/11に、県病害虫防除所より『斑点米カメムシ類発生注意報第一号』が発令されており、今年も平年より「多い」発生状況が予想される。座談会や町内広報無線も活用し、地区一斉での防除体制で望みたい(下記参照)。また、今年7月下旬から葉いもちの発生が散見されており、油断は禁物。穂いもちの発生を防ぐため、見回りや防除の徹底が重要となる。

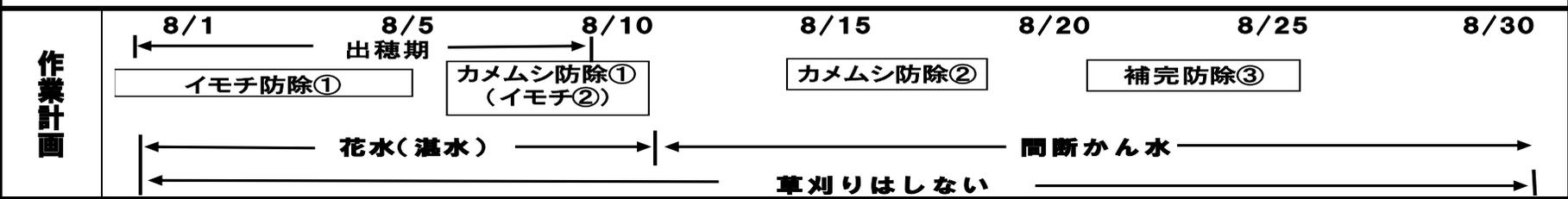
稲作管理も最終段階。最後の「水管理」と防除の徹底。適期防除にて、品質確保と安定収量に努めて行こう。また、高温状態が続く、水不足の心配があるため、地区内協力体制による水管理に努めよう。

出穂状況 (町内平均8/5現在) □は予想

	R1	H30	H29	平年	平年比
ヒメノモチ	7/28	7/28	7/29	8/3	△6
あきたこまち	8/1	7/29	7/30	8/4	△3
出羽燦々	8/4	8/3	8/5	8/7	△3
はえぬき	8/7	8/6	8/7	8/9	△2

※おおよそ平坦は2日早く、山間は2日遅い出穂

8月の稲作管理



1. カメムシ防除 — 今年も2~3回の防除徹底で! —

(1) 発生状況 ~「やや多い」~「7/11 発生注意報発令中」

第1回町内すくい取り調査(7/23)では、カメムシの発生は平年よりも「少ない」状況でしたが、山形県病害虫防除所の調査(8/1~3日調査地点44ヶ所)では田んぼへの侵入が多い結果が出ている。向こう1カ月の気温が高いと予想されており、斑点米カメムシ類の活動が活発になると推測されます。

また、現在出穂している田んぼでの発生密度も高いので、**適期防除と地区一斉での防除体制(下記日程)**が必要である。なお、**8月中の草刈はしない**様にする。

(2) 防除方法~穂揃期とその10日後並びに補完防除の町内一斉防除体制~

防除時期	一斉防除対象(全品種)	散布薬剤
①穂揃い期(穂の出揃い)	8/6~10	トレボン 又はMr. ジョーカー
②乳熟期(穂揃後7~10日)	8/14~18	キラップ 又はダントツ
③補完防除(②の7~10日後)	8/21~25	スタークル 又はダントツ

※なお、前年多発した田並びに防除後も発生が見える田は、**補完防除③**としてもう1回散布する。なお、使用時期に注意する。

※できるだけ早朝か夕方に散布し、薬剤は連用しない。(裏面参照)
※散布量は、10a当り粉剤は3~4kg、液剤は120~150L、粒剤は1kg。

2. 穂いもち防除 — 予防散布中心で1~2回防除! —

(1) 発生状況・対応 ~「平年並み」~

7月中旬以降葉色の濃いほ場や予防剤を使っていないほ場で葉いもちが確認されています。現在は日差しが強く高温状態にあるものの、今後穂首・枝梗いもちの発生も心配されますので、引き続き予防剤を中心に、**1~2回の防除**とする。

(2) 防除薬剤—カメムシとの同時防除主体で(裏面参照)—

特性	予防主体(10~14日)	治療主体(5~7日)	予防+治療(7~10日)
薬剤	ヒ-ム・ラフ・サイト'	カスミン・フーラシ	ソフラス

※カスミンは微生物由来の為成分カウント0。但し穂揃い期までの使用。

3. その他病害虫 — 発生に合せての防除! —

昨年より増えた**イナゴ**の発生も少し見られるが、発生密度を見ての防除とし、**害虫はカメムシ剤でほぼ効く**ので同時防除とする。紋枯病は、**バリダシン(0成分)**中心に。

4. 水管理 — 出穂後30日間は間断かん水厳守、 水で登熟向上を!! —

出穂開花期は、稲が最も水を必要とする(約1週間)ので、「**花水管理**」(灌水管理)として十分にかん水し水を切らさない様にする。**穂揃後は間断かん水**とし、根に水と酸素を十分に供給し、スムーズな登熟を進める為、**最低でも出穂後30日間(黄熟期まで)**は、**土壌水分を維持する**。最後まできめ細かな水管理で!

＜出穂後の水管理の目安＞	
出穂開花期	十分にかん水
出穂~穂揃い期	“花水”としての一時灌水管理
穂揃い期~出穂20日後	間断かん水(品質的に最も重要)
出穂21~30日後	足跡に水が残る、にじみ出る程度 高温時にはかん水
出穂31日以降	刈取りを考えて落水 気象によりかん水を行なう

※出穂以降にフェーン現象等により、**高温(35℃以上)**となったときは、**白粒増加等**により品質が低下するので、**一時的に灌水**して稲体の消耗を防ぐようにする。

5. 収穫準備 — 稲刈りも「早まる」予定で! —

今年はお出穂が「早まった」為、今後の天候等もあるが、**刈取り時期も早まり**そうである。(7/28出穂→刈取り 9/8頃:平年の積算気温)なお、この天候がもう少し続くと、かなり早まる事も予想されますので、**機械点検は早めに、秋作業に備えよう!**

~ポジティブリスト制度への対応として、農薬使用の際は、基準を遵守し飛散に気をつけ、畑作物等の隣接田では、粒剤使用として行く

～ 稲作用語講座 Vol. 5～

稲穂が見え始め、稲作も最終段階です。最後まで気を抜かず徹底した管理をお願いします。今回は「管理・防除編」です。

一 花水

稲穂が出てくる「出穂期」には稲穂での細胞分裂が活発なため、稲が最も水を必要とする時期です。この時期に田んぼに水を入れる事を「花水」といいます。

一 防除

一口に「防除」といっても大きく2種類に分類され、いもち病や紋枯病の予防や治療、斑点米カメムシ類などの害虫駆除に分かれています。それぞれ薬剤や時期が異なりますので、使用時期や希釈倍率については下記の内容を参考にしてください。

～次回は稲刈り・調整編の予定です～

Ⅱ R1 営農予約申込み(年特)特集Ⅱ

「むすぶ」になうはぐくむ営農強化運動」
通称、「年特」と言われているこの「営農予約申込み」は、事前に資材の予約を受け、指導購買を基本にしつつ、計画供給を通じ、できるだけ低価格での資材供給に努めていく予約運動です。

一 稲作設計に当たって

金山の稲づくりは、多数の兼業農家と、大規模農家・複合経営農家が担う形態になっている。総じて、「あまり手間のかからない稲づくり」が進められている。一方で、米販売環境の変化(安全安心 e.t.c.)に伴い、自然にやさしい環境を重視した米づくりが求められてきている。

現在、生産者の高齢化に伴い、経費の削減と作業コストの低減が課題となっているが、今後も環境に配慮した米づくりとしての「金山型環境保全型稲作」を引き続き進めていく。

「求められる米づくり」、「売れる米づくり」を前提に、品種・栽培条件等を含めた肥料設計と品目を選定してほしい。詳しくは年特資料参照。

～ 営農トピックス～

1. 一カメムシ図鑑 - 《主要害虫3種類》

	アカヒゲホソドリカメムシ	アカスジカメムシ	オオゲシラホシカメムシ
形態			
体長	5～6mm	5～6mm	5～7mm
発生	年3回発生(越冬卵)	年3回発生(越冬卵)	年2回発生(成虫越冬)
行動性	昼から活発に飛ぶ	活発に飛ぶ	飛べるが主に歩行移動
加害部位	全面	頂部・側部(割粒)	頂部・側部(割粒)
好きな植物	イネ科植物(飼料作物) 水田雑草(ヒエ・ホタルイ他)	イネ科植物(飼料作物) 水田雑草(ヒエ・ホタルイ他)	オオバコ、クローバー、ギシギシ、イネ科植物

2. 主な薬剤の使い方(イモチ・カメムシ)と特性

1) イモチ病防除剤

品名	剤型	規格	使用量(10a当り)	特性	当用価格(税込)
トレボン	粉剤	3kg	3～4kg	合成ピレスロイド系、即効的で安定、防除1回目主力	1,220
	乳剤	500cc	2000倍で120ℓ		3,800
Mr. ショーカー	粉剤	3kg	3～4kg	有機ケイ素系速効的で安定、防除1回目主力	1,280
	E W	500cc	2000倍で120ℓ		4,250
ダントツ	粉剤	3kg	3～4kg	ネオニコチノイド系、殺虫効果と浸透移行性による吸汁効果。防除2～3回目お勲	910
	水溶液	250g	4000倍で120ℓ		3,230
キラップ	粉剤	3kg	3～4kg	フェニルピラゾール系、速効性と耐雨性が高い長期持続型。防除2回目に。	1,310
	フロアブル	500cc	2000倍で120ℓ		4,250
スタークル	粉剤	3kg	3～4kg	ネオニコチノイド系、高い浸透移行性と殺虫・吸汁阻害効果。防除2～3回目に。	1,450
	液剤	500cc	1000倍で120ℓ		2,620

2) カメムシ防除剤

品名	剤型	規格	使用法(10a当り)	特性・残効	当用価格(税込)
ビーム	粉剤	3kg	3～4kg	トリクラゾール侵入・胞子阻止作用、予防中心13～15日	1,080
	ゾル	500cc	1000倍で120ℓ		1,920
ラブサイド	粉剤	3kg	3～4kg	有機塩素系稲穂侵入阻止作用、予防中心7～10日	740
	フロアブル	500cc	1000倍で120ℓ		1,040
カスミン	粉剤	3kg	3～4kg	抗生物質蛋白質合成阻害、治療中心5～7日、減農薬に有効(産後期まで)	730
	液剤	500cc	1000倍で120ℓ		830
ブラシン	粉剤	3kg	3～4kg	フェムリゾン(治療) + ラブサイド、予防・治療両用7～10日	1,140
	フロアブル	500cc	1000倍で120ℓ		2,020
ノンプラス	粉剤	3kg	3～4kg	フェムリゾン(治療) + ビーム、予防・治療両用10～13日	1,270
	フロアブル	500cc	1000倍で120ℓ		2,450

3) イモチ+カメムシ混合粉剤

品名	剤型	使用量(10a当り)	特性	当用価格(税込)
ビームトレボン	粉剤	3～4kg	ビーム+トレボンの混合剤	1,490
ブラシンキラップ	粉剤	3～4kg	ブラシン+キラップの混合剤	2,110

＝ 営 農 情 報 ＝

1. 一「特別栽培米」案内 part2 一

特別栽培米「つや姫・出羽燦々」の取扱いについては、下記の内容となります。今後も栽培基準を遵守し進めましょう。

- ① 栽培管理記録表の提出…8月30日(金)まで営農部へ提出。
- ② 取扱い…記録表の提出をもって確認し、認定とします。なお、秋の米集出荷は、区分検査・保管・出荷となります。

※一般米の栽培記録表は、米出荷時に提出となります。

2. 一令和元年産米「放射性物質検査」について一

今年も県より「放射性物質検査」の実施方針が出されました。主な内容としては、**モニタリング調査として実施し、出荷前の自粛は行わない**内容です。なお、詳細が出ましたら後日ご案内します。

3. 一令和2年産「つや姫」・「雪若丸」生産者募集について一

令和2年産「つや姫」・「雪若丸」の生産者募集についてですが、つや姫の作付面積は昨年に比べ、**町全体で1.6ha 増加**します。

また、「雪若丸」につきましては山形県全体で800ha 増加することが決定しました。当農協では、来年度栽培面積を90ha へ増加の希望を山形県へ提出しているところです。詳細が分かり次第ご案内します。

認定要件は別途配布する申込み要綱にてご確認ください。募集期間につきましては、8月9日～9月9日の間で募集いたしますので、多数のお申込みをお待ちしております。

詳しくは農協営農部・町産業課へ！

※現在「つや姫」・「雪若丸」を栽培されている方もお申込みをお願いします。

4. ～第2弾～ 一廃プラ回収夏企画＝

一未来の子供達に引継ぐ、豊かな自然環境の保全一

今年第2回目となる廃プラ回収を、下記要領で行う予定です。後日案内します。(秋企画:10/下も予定)。

- 1、期 間 8月21日(水)～8月27日(火)
- 2、場 所 農協営農部前の専用コンテナ
- 3、方 法 マルチ・農薬容器類は肥料袋に詰め口を結び、ハウスビニール・苗箱は梱包して搬入する。
- 4、利 用 料 肥料袋1個 150円
苗箱10枚 150円
農業空容器(肥料袋1個) 150円

～ 搬入の際は、営農部で受付をしてから積み込みしてください。～

5. 一 営農部(生産資材)情報 一

日頃より、ご利用頂きありがとうございます。お盆も近くなりましたが、営農部資材窓口は、8/15(月)のみ休みとなります。春(4月)より休日対応(午前中)を致しておりますが、10月下旬までの体制予定となりますので、ぜひ多数のご利用をお願いします。